

第9回 BELCA賞 ベストリフォーム部門 表彰建築物

十和田ホテル

所在地：秋田県鹿角郡小坂町十和田湖畔字鉛山

十和田国有林地内

用途：宿泊施設

所有者：秋田県

改修設計者：株式会社 石本建築事務所

改修施工者：大成建設株式会社

株式会社タナックス

東洋熱工業株式会社

大館桂工業株式会社

株式会社 巽工業所

竣工年：1938年

改修年：1998年



当施設は十和田湖を一望する景勝地に立つ由緒正しいリゾートホテルである。美しいが厳しい自然の中で60年余を経てのリニューアルとなったものであるが、三つの点からの評価が考えられると思う。

第一は、秋田杉を外装材とした木造の本館の改修である。事前の調査により、構造的には部分的な材料の交換、補強などを行った他、機能的には一部天井高を上げるなどの変更を行ったが内外とも長年親しまれてきた当初の意匠を再生し、イメージの継承に成功している。即ち、自然石の基壇に築かれた本館の外観は地元で育成製材された良質の秋田杉の半割丸太を張りつめ、周辺環境に融けこむように佇んでいる。また、耐震補強、空調、照明、給排水、防災などについては全て更新し、現代のニーズに合わせた快適な環境を形成している。この点に関しては国立公園内のさまざまな規制をクリアして、伝統と近代的機能の整合を果たした関係者の力量と技術を評価したい。

次に本館に隣接し、数回にわたり増築されてきた別館を全面的に取りこわした跡に建てられた新館は、昭和初期の洋風建築を思わせるどこか懐かしい空間として計画されているが、細かな配慮がされており、宿泊中心の本館機能を補完し一体となって、総合的なホテル機能を実現している。これは、この施設の将来へ向けての活性化に大きく寄与している。本館と新館は大きな中庭を介して連絡しており、特に新館ラウンジからは木装の本館が、よく意識できるよう計画されている。

第三点目は、本館と新館の空間的及び意匠的調和の問題である。アプローチしてくると新館と本館の外観がならんで目に入るが、この二棟は必ずしも同一の施設には見えない。ボリュームと色合いの相似性の他、窓の扱い、外装材、細部デザインなどに明確な連携は感じられないし、と言って対比的な調和がある訳でもない。機能的一体化が成立していることに比べ、外装デザインとしては質は確保しているが、似て否なるものという印象もあり、調和という意図は、やや弱いと言わざるを得ない。あえて言えば、新館客室棟の外装も杉丸太を使用してもよかったのではないかと思考する。

しかし、総体的に言えば、よく行き届いた設計と施工が実感され、好感もてる改修作品という評価に変わりはない。更に言えば、寒暖の差の烈しい地域で、施設そのものも、設備機器なども傷みやすく、メンテナンスにも手がかかると予想されるが、その為か維持管理計画は予算年も含め、実に詳細に計画されており、この歴史ある資産を末永く守っていこうとする関係者の熱意と意欲が、現地審査の日のすばらしい晴天と眺望のように、清々しく感じられた。